



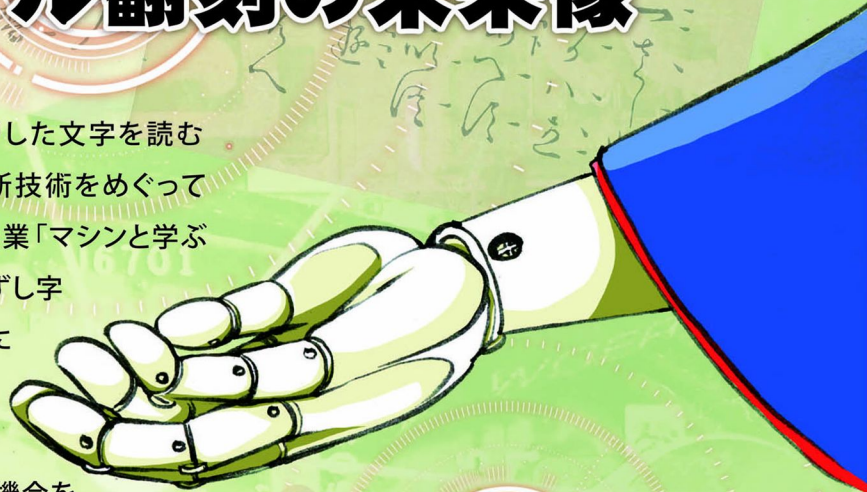
## シンポジウム

# マシンと読むくずし字 ——デジタル翻刻の未来像

デジタルの世界で、昔の人が書いたり作ったりした文字を読む技術が注目されています。2019年秋、この最新技術をめぐって文系・理系の人々の橋渡しを目的に、実験授業「マシンと学ぶくずし字」を開催し、AIやOCR技術が、いかにくずし字（昔の人が使っていた文字）を学ぶ／読む助けになるかを目の当たりにしました。

そこで今回、さらに視点を広げて、この分野の最前線でどんなことが行われているのかを知る機会を持ちたいと思います。

現状の試みにはいかなるものがあるのでしょうか。紙の時代の作業と何が違うのか、またこの技術が発展していくために必要なことは何か、種々の試みに通底する課題を踏まえ、この技術でどんな夢を描くべきか、一緒に考えたいと思います。



## ▶ シンポジウムとデモンストレーション

**司会** 宮川真弥 (天理大学附属天理図書館)

### コメンテーター

- 津田 真弓 (慶應義塾大学) 「実験授業〈機械(マシン)と学ぶ「くずし字」〉報告」
- 大澤 留次郎 (凸版印刷株式会社) 「翻刻とAI-OCR」
- 橋本 雄太 (国立歴史民俗博物館) 「市民参加型翻刻の現状と将来」
- 海野 圭介 (国文学研究資料館) 「国文学研究資料館の取り組み(仮)」

### 日時

2020年  
2月8日(土)  
13:00~17:00

**主催・企画** 慶應義塾大学教養研究センター／津田真弓 (慶應義塾大学教授)

**後援** 日本近世文学会

**場所** 慶應義塾大学 日吉キャンパス 来往舎 シンポジウムスペース

**参加** 自由・無料 (ホームページより参加登録をお願い致します)

**サイトURL** <http://user.keio.ac.jp/~sakura/kuzushiji/>

詳細は  
HPで

